

第2回宇部市立保育園のあり方検討委員会議事録【要約】

●日時：平成27年7月27日（月）18:10～20:15

●会場：宇部市役所 2階 第1会議室

【議事】

(1) 宇部市立保育園のあり方について

(委員)

公立保育園の保護者の代表として、自分一人の意見ではなく、公立保育園利用者の皆さんの意見を聞くためアンケートをとった。保護者からの意見としては、「丁寧な協議をしてほしい。」、「民間移譲により保育料が高くなならないか」等があった。

(委員)

アンケート結果から、現在公立保育園に通っている方々にとって公立保育園が素晴らしい環境であることは理解できる。それでは、アンケート結果を見る限り、民営化は駄目なのかとなる可能性がある。

ただ、これは十分な情報提供がないままに、現在、公立保育園を利用されている方を対象に行われたもの。私立は私立として、厳しい条件の中で、いろいろと苦勞されている。私立保育園や幼稚園を利用されている方にアンケートを実施すれば、違った結果となるだろう。その辺りを整理しないと検討は進まないのではないかと。

(委員)

あり方検討委員会がどういう立場で協議していくのか。委員会として公立保育園の良さを見つけ維持することを考えるのか、宇部市の財政を考えて、今後どうしていくのが一番いいのかを協議するのかをはっきりさせて意見を交わさないと、会としての結論は出てこない。私は、財政面を詰めて、市としての効果を見て、結論を出すことがこの委員会の役割だと考える。その辺りをはっきりさせてほしい。

(委員)

全国的な流れとしては民営化に傾いている。10月に結果を出すのは早すぎる。少子化で子どもが減る中、民間の保育園が大きく定員を割れて経営に困ってくれば、公立の定員を減らすことも考慮に入れる必要があると考える。私立に対して、努力だけを求められても、行政からの支援がないと努力も難しい。

(委員)

市として、どういう方向で考えているのかを示してもらわないと協議の仕様がでない。全国的に民営化に向かっているのは周知のこと。市の財政面からも、いたしかたないと理解できる。しかし、市が方向性を示さないと、何度会議を重ねても、実のある協議ができない。もう少し方向性を出して協議を重ねれば、皆さんが納得できるのではないかと。他の市町村の動向も見ながら、入園児数や幼稚園のあり方も踏まえて、市の考えもあるだろうから、市の意見を言ってほしい。

(委員)

保護者間でも意識の差がある。宇部市の需要と供給がアンバランスになり、定員の奪い合いになったら話は別だが、そうでないのなら今のままで、公立は存続してもいいのではないかと。

(事務局)

アンケート結果の中には、公立と私立の役割や公的保育の内容を誤解されていることが窺える。検討委員会で何を協議していくのかについては、保育の質と量を確保した上で民間移譲をした場合がどうなのかを考えてほしい。当然、民間移譲を段階的に考えていく必要もある。市としては、財政的な面も含めて検討していく中で、様々な子育て支援施策の充実を図っていく。公立保育園については、施設の老朽化への対応も含めて、市財政にどのような影響を与えるのか、子どもたちをしっかりと育てていく上で、公立・私立の違いがあるのか、保育の質と量を確保するにあたり、私立に公立の役割を担っていただくことができるかといった協議が必要と考える。

(委員)

市としては、民間移譲を前提に話を進める方向性なのか。

(事務局)

保育の質と量を確保できるなら、民間移譲を踏まえて検討することが基本的な考え。民間移譲を検討すると考えてもらってよい。民間移譲が決定しているわけではないが、民間移譲することでどのようなことが考えられるかについて協議いただきたい。

(委員)

このアンケートの意見は反映されないでいいのか。

(事務局)

本アンケートについては、委員としての活動として実施されたものにとらえている。ただ、寄せられた意見の中には、保育制度を誤解されているものや、民間移譲について不安に思われているものもある。今後、委員会での協議を踏まえ、市として検討していく中で、利用者に対して説明していく必要性があると考え。

(委員)

公立保育園のあり方を協議するための材料になればと思いアンケートをした。公立保育園の検討について、どういう状況が背景にあるかを、市が保護者に伝えるべき。公立保育園を民間移譲した場合のメリット・デメリットなど、市から保護者への説明はいつしてもらえるのか。

(事務局)

この委員会のメンバーは関係者から広く出ていただくよう構成を考えた。委員会からの提言をいただき、市としての考えを検討する段階で、保護者への説明をしていく。

(委員)

4回の委員会が終わり、提言が出てから説明していくのか。

(事務局)

確定ではないが、現在は、そのように考えている。

(委員)

市が何故この時期に民営化の話をしたのか、背景があるのではないかとよくわからない状況の中で会議を進め、4回の委員会で民営化が決まってしまうのは困る。保護者も納得し、公立保育園の市職員の処遇も協議のうえで、段階を踏んで話を進めるべき。なぜ今の段階で市がこの民営化の話をされたのか。

(事務局)

公立保育園の民営化については、市議会では何年も前から取り上げられ、行財政改革を

進める中で、これまでも協議されてきた。一方、少子化の進展と厳しい財政状況の中で、手当や医療等の子育て支援施策の充実を図っている状況にある。その中で、平成27年度には専門の委員会を立ち上げて協議することとなった。

(事務局)

今後、子育て支援施策の充実を考えていかないといけない中で、近々のうちに建て替えを検討していかなくてはならない公立保育園もある。その時に、効率的な経費の使用を考えていかなくてはならない。だからと言って、財政的な面だけの問題ではない。公的保育はしっかりやっつけていかなくてはならない。公的保育は公立保育園だけではない、公立保育園・私立保育園、さらに認定こども園等でもしっかり担っていかなくてはならない。子育て支援の充実、保育の質と量の確保をしていく中で、考えていくことが必要。

(会長)

本日の資料の内容にも触れられているので、ここで資料の説明もお願いします。

(事務局)

資料にそって説明

幼稚園・保育園の利用の推移、本市の主な子育て支援策、子育て支援に係る当初予算額の推移、宇部市立保育園の今後の方向性

(事務局)

資料の要点とすれば、

- 1点目として、当分の間は、保育のニーズ量はそれほど大きく減らないであろう。
- 2点目として、子育て支援全体として充実を図る必要がある。
- 3点目として、財政面からも、民間移譲を含めて検討していく必要があると考える。といった内容の構成としている。

(会長)

今の説明または背景を受けて、意見をお願いします。

(副会長)

存続の可能性を考えるのか、民間移譲を考えるのかで、協議の方向性が変わってくる。市の方向性として、保育のニーズはあり、すぐの廃園は困難との考えのようだが、受け皿が準備されていない中で、市として、あと何年抱えられるのか、共存していくならあと何年もたせられるのかの見通しが出ないと、委員会での協議が進まない。公立保育園の担う役割がどういうもので、どこまでの見通しで考えればいいのか。もう少し市から方向が示されれば、何を考えればいいのかが見えてくるのではないかと。

(事務局)

市の施策を見直す中で、公立保育園の民間移譲を検討することはある。その中で民間移譲を考えた場合、仮定の話として例えば、公立5園のうち1園を民間移譲し、その検証を行って問題がなければ次の段階を考えていくこともあり得ると考える。公立が担っていかなくてはならない部分はあるが、子育て支援全体で考えた場合、民間移譲を検討することも必要。検証しながら、段階を追って考える。今現在、民間移譲に対する明確なスケジュールはない。

(委員)

検討委員会に参加するに当たり、あり方という言葉からも、どういう子育て施設をつく

っていきたいかを協議する場だと思っていた。利用者の立場からは、財政面を言われると何も言えない。何をもって質と言っているのかが分かりづらい。公私を比較して、何が変わるのかわからないままでは、意見を出しにくい。

(事務局)

提供されているサービスの有無を質と考えるならば、今現在、公立が行っており、保護者に満足してもらっているサービスを、私立になっても同じように継続できれば、ある程度の質は確保できると考える。

(委員)

自分が利用している園がいいという意見が出るのは当たり前。まずは、そこで働かれている先生方にしっかり説明したほうがよい。例えば、築年数から考えたりして、もう少し、具体的な園で、協議内容をシュミレーションしたほうがわかりやすい。財政面、安全管理の面からの協議や、職員の処遇や在籍園児数などを踏まえての検討が必要。

(会長)

あり方検討委員会は、公立保育園のあり方を検討する場であり、民営化を協議するものではない。保育の内容に係わる立場の委員では財政状況に照らして民営化を協議することは困難。本委員会では、民営化したら保育内容にどういったさしつかえがあるのか、どういった点を担保しておかなくては行けないか、民営化するならどういった条件を付ける必要があるか等を協議する場とするべき。保育は公的事業であり、公私に差があってはおかしい。公立の役割、私立の役割で区別するものではなく、公私とも公共の事業であることを頭に置いたうえで協議を進めるべき。今後は、焦点を絞って協議を進めたい。

(事務局)

最終的な方向性の判断は市が行う。委員会では、先ほど会長が言われたように、民間移譲に伴ってどういった課題があるかを協議していただきたい。公立・私立とも公的保育であり、差がないと認識している。だからこそ、保育の質と量の確保を大前提として、民間移譲も踏まえて論議できる。

(副会長)

それぞれの立場がいかにかきかせるかの協議が必要。市としての、公立保育園の建て替えや維持に関する可能性や見通しを、もう少し示してほしい。

(会長)

この委員会では、そこまでを考慮しての協議までは必要ないのではないかと。市の総合的な考えとして、財政面等を考慮して、最終的に市が判断されるもの。この委員会では、民営化するなら何が問題かを協議するべき。財政的な面は抜きで、保育の中身が確保できるかの部分で考えたい。利用者は、現に利用している園がいいわけで、公立ならどこでもいいわけではないと思う。それぞれの園の特色を考えて民間移譲を考えていくべき。次回以降は、民間移譲をするにあたっては、どういった問題点や課題があるかを中心に協議していきたい。

(2) その他

(事務局)

次回の会議の日程は後日調整する。